

# ランナー vol.6

2018年4月



↑HPはこちらから

## 編集長 武藤の巻頭ご挨拶

3月下旬から各地で桜が開花し始め、お花見をされる方を多く見かけました。かく言う私も、3月末にお花見をしました。

お花見は、奈良時代の文献にも記載があり、古くから日本で行われてきた伝統的な季節の行事だと言えます。農民は、桜の木は春になると田の神様が宿ると考えていたそうで、桜の花の咲き具合を見てその年の稲の豊作・凶作を占ったのがお花見の起源の一つとされています。

桜が咲くこの時期は、新タマネギや新ジャガイモ、タケノコなどの春の短い時期しか食べることができない野菜が出回ります。特に新タマネギや新ジャガイモは、普段の物と比べ瑞々しく、楽しみにされている方も多くいらっしゃるかと思います。

そんな短い時期しか食べられない野菜の中でも私が毎年楽しみにしているものが、コゴミとワラビです。3月に出来るフキノトウとは違い、苦みがなく非常に食べやすく感じますが、山菜という事もあって、栄養価が高く、抗酸化作用もあります。

4月に入ると、愛知でも最高気温が20℃を上回る日が多くなります。春の麗らかな日差しの中で、旬の物を食べながら花を愛でるのも素敵な過ごし方ですね。

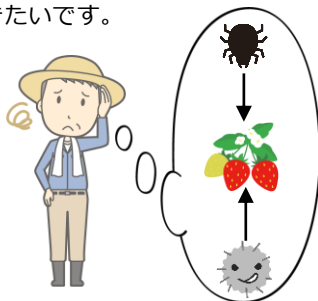


## かわむーの西三河研究農場イチゴ便り

先日、田圃の畦に土筆が生えているのを見つけました。庭先の桃の花も大きく膨らんで、春の訪れを感じさせてくれます。まだ夜は冷えるので風邪には気を付けたいですね。

西三河農場のイチゴは草丈が急激に伸び、多くの花を咲かせています。一時期に比べると一果の大きさは小さくなりましたが、果数は変わらないか少し多いくらいです。単価は下がっていますが量は多くなるので、農家にとってここが一番の頑張りの時となります。イチゴはこれからが本当の旬ですので是非食べて頂きたいです。

さて、イチゴ栽培においてこの時期に一番気を付けたいのは「ハダニ」と「灰色カビ病」ではないでしょうか。我が農場も毎年のように悩まされ、今年も若干被害が出ています。ハダニは高温・乾燥の時に多発し、灰色カビ病は低温・多湿の時に発生します。一見、相反する状態に思われますが、2月下旬～3月というのは昼は20℃まで気温が上がり、夜は5℃ほどになります。また温室内は、昼は窓が開き換気がされるため湿度が下がりますが、夜は暖房機が動いていてもほぼ密閉状態ですので、湿度は100%になります。



こうした季節の変わり目というのは他の作物にとっても病害虫が発生しやすく、収量が下がる原因となるため、注意が必要です。現在西三河農場では、夜間に数分間強制的に換気扇を回し湿度を下げ、葉が混みあっているところを摘葉して通気をよくすることで、ハダニと灰色カビ病の蔓延を防いでいます。薬剤だけに頼るのではなく物理的に防除を行うなど、総合的病害虫・雑草管理 (IPM) が重要です。

## 大地の千葉研究農場トマト便り

今年1月に入社された福島拓朗君が2月の中ごろ、千葉研究農場に配属になりました。そこで、簡単なインタビューをしてみたいと思います。

Q1. 学生時代どんな研究をおこなっていましたか。

私は学生時代、テンペと呼ばれる発酵食品に生ずる苦味についての研究をおこなっていました。テンペはインドネシアの伝統的な大豆発酵食品で、整腸作用や血中コレステロール低減効果、抗酸化物質としての薬理作用などの生体調節機能が注目されています。日本で言うところの納豆に近い物ですが匂いはほとんどなく、食べやすいのが特徴です。そのテンペを作るために用いるテンペ菌を使い、新たな健康食品として発酵豆乳飲料の製作を試みた結果、豆乳内に強い苦みが生ずることが分かったため、その苦味の原因となるものを解明し苦味をコントロールすることを目的に研究をおこなっていました。



テンペ

Q2. どんな仕事をしたいですか。

近年、「入手できる土地があった」や「自ら経営できる魅力がある」等を理由に新規就農者は増加傾向にあります。始めたのはいいものの「所得が少ない」や「技術が未熟」等の悩みを持つ人が多く、離農率が高い現状にあります。この現状を打破するために、大学で学んだ食品加工の知識と現在習得中である栽培技術やハウスの知識を用いて新しいモデルを提案し、1次産業2次産業双方の分野から新規就農者をサポートできる人材になりたいと考えています。



## 気になるあの人にインタビュー



### プロフィール

執行役員営業事業本部長兼中部支社長 犬塚 浩史

#### 主な経歴

- 1980年 9月 本社 額縁
- 1986年11月 本社 営業部
- 1997年 9月 中部支社 営業部長
- 2007年 5月 執行役員営業事業本部長兼中部支社営業部長
- 2012年 6月 執行役員営業事業本部長兼中部支社長

——現在の業務内容について教えてください。

東日本を中心に、1ヘクタール以上の大型プロジェクトの営業マンのフォローを行っております。温室の営業担当になった頃は、大仙が今まであまり営業を行っていなかった地域で営業をしていましたので、仕事を頂くために、プライベートのことも話したりして、私のことを知ってもらい、まずは私自身を信頼してもらうことを第一に考えていました。今でも、こういった意識をもって仕事をしています。

——仕事をしていて感じることは何ですか？

20代を中心とした若い方が増えて、自然と接する機会が増えたこともあり、若い方のエネルギーを分けてもらって、私もまだ頑張らなくてはいけないなと感じるようになりましたね。また最近、仕事を通して、日本の農業のために何かを残したいと強く考えます。そのために何ができるのか、何をすべきなのかを考えながら仕事をしていますね。

——今後の展望、行っていきたいことを教えてください。

現在、大型のハウスはオランダ式の設備を使用していることがほとんどです。オランダ式などの海外の設備だけではなく、日本式の大型に対応できる設備を新しい時代の人達に作ってほしいです。

——本日はお忙しい中、ありがとうございました。私も「日本の農業のために何かを残す」という思いを抱いて、仕事をしたいと思いました。

## ゆうさんの水産豆知識

### 水族館豆知識 Part4

第4回目は、チンアナゴについてです。少し前に爆発的に人気になり、今もまだ根強い人気生物の1種ですね。今回はそんなチンアナゴの豆知識です。

チンアナゴは砂底に生息し、流れてきたプランクトンを餌としています。水の流れてくるほうに体を向ける習性があるため、みんな同じ方向を向いています。

このチンアナゴ、水族館ではめったに体全体を見ることができないため、知ってる人は少ないと思いますが、実は全長30~40cmもあるのです。

水族館でよく見られるのは下の2種です。



チンアナゴ



ニシキアナゴ

余談  
個体差



体の模様は完全ランダムだそうです。

← ですが、チンアナゴについては、大きな黒い点の位置は決まっているそうです。



砂の中の様子

よく両方ともチンアナゴだと思っている方がいますが、左は「チンアナゴ」、右は「ニシキアナゴ」であり、別種です。





ミッキーの「農」と「食」のお話

「今、農業で働くということ」

農業をするということは、従来は農家を継ぐ、もしくは新規に就農するということでした。しかし、働き方が多様化する現在では、就職先として農業を選ぶ人が増えています。その経歴は新卒や他分野からの転職など様々で、多様な魅力のある農業を始めたいという人は少なくありません。例えば、49歳以下で新たに農業を仕事にする人は、年間で2万人以上います。中でも目立って増えているのが、農業法人に新たに就職する「新規雇用就農者」です。これは家族経営の法人化に加えて、他の産業からの新規参入もあり、農業法人そのものが急増しているという背景があります。

初めから自営農家を目指すのではなく、農業法人に就職するという方法には多くのメリットがあります。①家業が農業でなくてよい、②初期投資がかからない、③一般企業と同様の福利厚生（福利厚生の充実した農業法人もある）などです。独立を目指す人は経験を積みながら知識やノウハウを蓄えられるほか、そのまま長く勤めることもできます。また、農業には農作業だけではなく、企画、営業、経理・財務、労務管理などの仕事もあり、専門性を持つ人は、それを活かす働き方も出来ます。さらに最近では、商品開発やレストラン経営、海外市場への展開をはかったりと、積極的な経営を行う法人も多数あります。

では、実際に農業法人に就職しようとした場合、どのように行動すればよいのでしょうか？農業に興味や憧れがあり、将来の仕事にしてみたいと思っても、全くの未経験の場合、分からないことばかりです。そんな時は、農業を職業にする前に本当に自分に向いているか確かめたり、試しに農作業を経験したり、プロの農家にいろいろ話を聞いてみるなど、JA全農や自治体、民間企業が企画している「農業体験ツアー」に参加してみるのも良いでしょう。農業ツアーや農泊に参加して農業への興味が増し、より本格的に取り組んでみたいとなったときには、インターンシップという制度もあります。

また、すでに農業を仕事にしようと思いつき、農業法人への就職を考えている人には、一般企業と同じような相談窓口や説明会、求人情報提供など、様々なサービスが用意されています。例えば、全国農業会議所は、各都道府県に「全国新規就農相談センター」を設置し、農業法人の求人情報を公開すると共に、各都道府県で開催される就農相談会などの情報発信を行っています。民間企業も就農支援事業に参入しています。



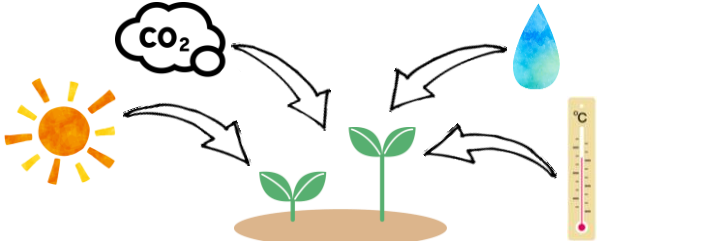
四季を感じながら、自然と共に生きられる仕事の1つが農業であると思います。人間が生きていく上でなくてはならない食物を作り、地域社会に貢献出来るという生きがい、やりがいもあります。創意工夫を活かせる創造的な仕事でもあります。また、最近では、地域の若い人たちのために、家族を大切にしつつ安心して働ける職場を作りたいという想いから「女性が働きやすい環境作り」という視点を大切にしているところもあります。例えば、産前産後・育児休暇、短時間勤務といった制度を導入したり、シャワー室を設けたり、男女別々の休憩室やトイレの設置などを行っています。

自分の価値観を大切にしながら、こういった働き方をするのか。そこには様々な選択肢がある時代になりました。

神さまのシステム用語・計算方法

CO<sub>2</sub>濃度と光合成速度の関係性について

光合成の要素は、光・CO<sub>2</sub>・水・温度が制限因子となります。施設栽培のような被覆材で覆われた中で、光合成を促進させるために必要なものとして、まず思い浮かぶものはCO<sub>2</sub>かと思えます。



弊社農場でのトマトの試験データ(右図)から、CO<sub>2</sub>濃度を100ppmから200ppmに上げると光合成速度は4.04倍になります。200ppmから300ppmに上げると1.69倍、300ppmから400ppmに上げると1.34倍、400ppmから500ppmに上げると1.22倍となり、徐々に増加率は少なくなります。1200ppmから1500ppmに上げた場合、1.02倍の増加率になります。

この光合成速度の増加が収穫量に対してどの程度効果があるかについては、別問題となりますが、弊社農場の試験では、CO<sub>2</sub>施用の有りと無しでは、CO<sub>2</sub>施用有りの方が収穫量が2割程度多く、ハウス内CO<sub>2</sub>を可能な限り1000ppmになるように高濃度施用した場合は、さらに1割弱収穫量が増加する試験結果が得られています。

サンラックシステム(トマト)での試験

CO <sub>2</sub> 濃度 (ppm)	光合成速度 (μmol/m <sup>2</sup> /sec)	光合成速度増加率
100	2.3	
200	9.3	4.04
300	15.7	1.69
400	21.1	1.34
500	25.8	1.22
600	29.5	1.14
800	34.4	1.17
1000	37.1	1.08
1200	38.4	1.04
1500	39.3	1.02

※千葉研究農場試験データより

TOMOYAの英語で学ぶ今月の名言

Do the hard jobs first. The easy jobs will take care of themselves.

まず難しい仕事から始めなさい。易しい仕事は、勝手に片付いていく。  
- Dale Carnegie (デール・カーネギー、作家)



福くんの栽培お役立ちコーナー

4月～6月の予報

**栽培ワンポイント**

向こう3か月の気温予報は、全国的に平年並みか高い傾向にあります。春は多くの野菜が種まきのシーズンを迎えますが、温暖な気候のため例年より育てやすい環境になると思われます。水分と栄養の管理をしっかりとし、おいしい作物を収穫しましょう。

気象庁「3か月の平均気温・降水量」「月別の平均気温・降水量」を加工して作成

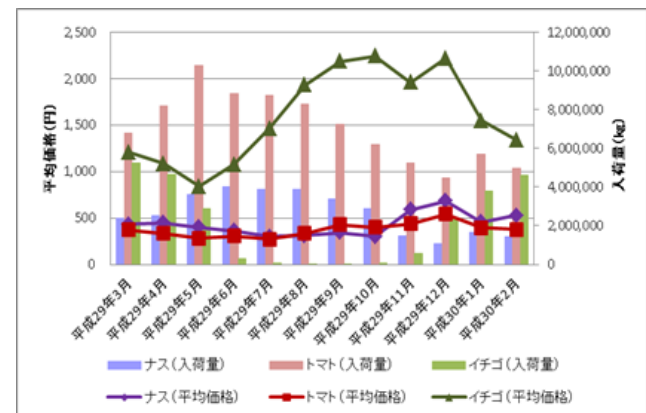
平均気温

地域	平均気温			
	4月～6月	4月	5月	6月
北日本	高い	高い	平年並か 高い	平年並か 高い
東日本	高い	高い	平年並か 高い	ほぼ平年並
西日本	高い	高い	平年並か 高い	ほぼ平年並
沖縄・奄美	平年並か 高い	ほぼ平年並	平年並か 高い	平年並か 高い

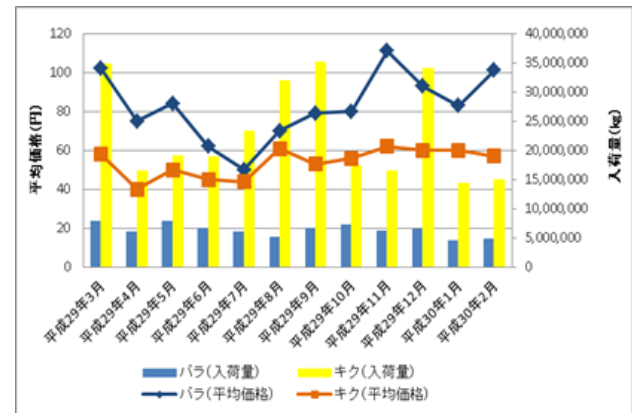
降水量

地域		降水量			
		4月～6月	4月	5月	6月
北日本	日本海側	ほぼ平年並	ほぼ平年並	ほぼ平年並	ほぼ平年並
	太平洋側	ほぼ平年並	平年並か 多い	ほぼ平年並	ほぼ平年並
東日本	日本海側	ほぼ平年並	ほぼ平年並	ほぼ平年並	平年並か 多い
	太平洋側	ほぼ平年並	ほぼ平年並	ほぼ平年並	平年並か 多い
西日本	日本海側	ほぼ平年並	平年並か 少ない	ほぼ平年並	平年並か 多い
	太平洋側	ほぼ平年並	平年並か 少ない	ほぼ平年並	平年並か 多い
沖縄・奄美		平年並か 少ない	平年並か 少ない	ほぼ平年並	ほぼ平年並

トマト・イチゴ・ナスの平均価格と入荷量



キク・バラの平均価格と入荷量



ランナー vol.6 2018年4月発行 掲載記事の無断掲載を禁じます。  
発行所 株式会社 大仙 営業事業部  
〒440-8521 愛知県豊橋市下地町字柳目8  
[TEL] 0532-54-6521 [FAX]0532-57-1751 [E-mail]mail.magazine@daisen.co.jp [登録]



※メールマガジン配信希望の方は、右にありますQRコードよりご登録いただくか、上記のE-mailアドレスより空メールの送信をお願いいたします。

